



# 写真師 村田正吉

明治43年(1910)の松江写真同業組合員に名を連ねる村田青雲は、山口県の萩唐樋町から松江に進出した写真師です。本名を村田正吉(庄吉、政吉とも書く)といいます。養父の村田慎吾は、森田礼造と同じく長崎の上野彦馬のもとで技術を身に着けた写真師で、明治9年(1876)に起こった土族反乱「萩の乱」を撮影したことで知られます。村田正吉は、明治20年代に山口から出張して撮影を行い、後に

拠点<sup>との</sup>を松江に移して、当時珍しい洋館の店舗を殿町に設けました。展示品はその写真館に掲げた看板で、彫工荒川亀齋が手掛けたものと伝わります。村田写真館は母衣町に移転しますが、看板は新しい店でも使われました。昭和4年(1929)のホーランエンヤを撮影した写真に、看板を掲げる母衣町の村田写真館が写り込んでいます。村田写真館は正吉の子武夫<sup>たけお</sup>が跡を継ぎ、昭和24年(1949)まで営業しました。



## 村田写真館の看板

明治時代、伝荒川亀齋作、木製  
写真看板(中央)幅54cm、高さ96.3cm、厚さ5cm  
看板装飾(右、左)幅123cm、高さ43cm、厚さ15cm

## 看板を掲げる母衣町時代の村田写真館

昭和4年(1929)撮影、写真は個人蔵  
大きな建物は出雲電気本社。現在の中国電力島根支社あたりに建っていた。その3軒となりに村田写真館はあった。

